

鴻巣西中通信

学 校 だ よ り

鴻巣市立鴻巣西中学校
鴻巣市大間1161番地
令和4年7月1日

第4号

「助けられる中学生」から「助ける中学生」へ

～感動提供 鴻巣西中！ 命の恩人とゴミ袋～ 校長 服部幸司

先月6月24日(金)朝7:30職員室の電話が鳴りました。期末テスト前最後の朝練ということで、先生方は各部活動の指導に行っており、私が受話器をとりました。受話器の声は50代前後と思われる女性です。「昨日、西中学校3年生サッカー部3名の生徒さんに、助けていただきました。そのお礼の電話です。」と言うのです。

女性：「昨日の夜ですが、家(うち)の夫が踏切内で自転車ごと転倒してしまい、動けなくなっ
てしまったところを助けてもらったのです。」

校長：「本校から言うと大間郵便局の向こう側、エンゼル幼稚園のところの踏切でしょうか。」

女性：「いえいえ、もっと北鴻巣寄りです。そうそう、サイド商会という自転車屋さん近くの踏
切で、もう、遮断機が降り始めていました。『おじさん、危ないよ。』と声を掛けなが
ら、家(うち)の主人を抱き抱えて助けてくれたんです。」

校長：「そうだったのですか。昨夜の話ですよ。」

女性：「そうです。夜の8:30か9:00頃だったと思います。家(うち)の主人もいろ
いろあって、お酒に酔ってしまって。」

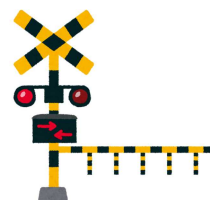
校長：「奥様も大変でしたね。」

女性：「いえいえ、とにかくあの3人は命の恩人なのです。助けてくれただ
けでなく、自分のお金で近くのセブンイレブンまで行って水を買ってきて、『おじさん、
水、飲んだ方がいいよ。』と言って差し出してくれたんです。それから、大変な状況が
分かったようで、自宅まで3人で送り届けようとしてくれたんです。」

校長：「私は校長の服部と申しますが、そんなに感謝していただいて嬉しいです。」

女性：「本当にあんな中学生がいるんですねえ。それから、今日の朝練は、そんなことがあ
ったので3人は遅れてしまうかもしれません。叱らないでください…」

校長：「分かりました。今日は嬉しいお電話ありがとうございました。今日、3名を呼んで、
必ず褒めます。ありがとうございました。」



この電話の1週間前には、地域の方から、大野神社近くの路上のゴミ袋の話をいただきました。



大野神社近くにお住まいのその方は、その日、道路の真ん中に転がるゴミ袋
を見つけた西中男子生徒3、4人が目に入ったそうです。専用袋に入っていない
ゴミ袋をどうするのかなー、と見ていると、そのゴミ袋を近くのゴミ集積所
まで丁寧に戻したそうです。今時の中学生もこんな行動をするのか、と思っ
ていたところ、その後、その様子を見ていた女子生徒が、男子に向かって、「そ
こに置いたって、持って行ってくれるわけではないじゃない。私、持って帰るから。」と
言って、自宅
まで持ち帰って行ったそうです。その方はその話を我が娘にし、「きっと、あの女の子、家で叱
られているよね。」と言うと、娘さんに、「お母さんね。そういう行動ができる女の子のお母さん
でしょ。叱るわけではないじゃない。」と言われ、妙に納得したそうです。

まだまだ苦情の電話もある中、このような西中生に対するお褒めの言葉をいただくと、心の底
から嬉しい気持ちになり、同時に使命感を新(あらた)にします。「助けられる中学生」から「助
ける中学生」へ。これからも全教職員で邁進してまいります。